

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ全体に伝え、説明しそれを心がけている。	○	パンフレット作成時に地域密着サービスの方針を記載したい
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時などで話し合いをし理念を念頭に入れ、日々取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設内に理念を書いた紙を掲げたり、運営推進会議の際にも口頭にて説明し、理解して頂けるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	必ずあいさつをし、玄関先にはベンチや椅子を配置し、気軽に休憩など立ち寄ってもらえるスペースを作り親近感を感じてもらえる様に努めている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での行事には極力参加させて頂いている。また、施設でのイベントは自治会や子供会を招待して交流を深めている。	○	地域などの行事の手伝いなど積極的に行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の為の実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	地域住民が介護上で悩んでいる事等があれば、気軽に相談に乗れるような環境を作りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を基に改善しようとしているがあまり実施できていない。	○	外部評価で指摘されたことは1つ1つ改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での提案は毎月のミーティング時に全スタッフに伝え、話し合いの場を作り頂いた意見を活かせるよう努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行い、相談、指導を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会などに参加し知識、向上に努めている。	○	定期的に研修会など参加している。入居者、ご家族に説明できるように体制を整えたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度のミーティングで話合っており、常日ごろより、注意を払い介護に従事している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者、ご家族に十分説明する。また、話し合いの場には代表者、管理者が同席し十分な話し合いをし理解、納得して頂いている。契約後も不安や疑問点があれば納得されるまで説明している。(退居時も同様)		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や懇談時、入居者、入居者の代弁者として、ご家族に意見を求め、その都度、解決策を提案している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の通信、年賀状、暑中お見舞いを郵送し当施設での行事、生活ぶりを報告している。また、面会時も近況報告を口頭にて行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時などに伺っている。ご相談受付箱を設置しているが、活用されていない。	○	ご家族が意見を言いやすいように、工夫をしていきたい。具体的な方法は検討中。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時や普段からスタッフが意見を言えるような雰囲気作りをしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	話し合いの場を持ち、その都度、状況に合わせて対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しくスタッフが入る場合は入居者に紹介し、まずは、入居者と仲良くなってもらう為に会話をよくするように指導している。離職する際には入居者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>経営者、代表者で面接し、応募者の熱意や人間性、当施設が求める素質などを際重視した採用を行っている。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>市から頂いた、テキストを回覧し、個々に勉強している。</p>	<p>○ 身体拘束、虐待防止マニュアルを作成した。職員に周知徹底していきたい。</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スキルアップに心がけている。外部研修の案内がきた時には、なるべく参加するようにしている。</p>	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会し、研修等に参加し交流を図っている。</p>	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>代表者や管理者は日常から相談や悩み等を聴ける雰囲気作りに努めている。また、親睦会も年数回開催している。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得やスキルアップのための研修に積極的に参加してもらっている。また、スタッフ間で問題があった時はしこりが残らないように話し合いの場を持っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や援助を求める訴えを聴き信頼関係が築けるように努めている。	○ 話し合える雰囲気づくりを心がけている。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在に至るまでの経緯、思いを聴き、受け止める対応に努めている。	○ ご家族の方にも安心して頂けるように連絡、情報を伝えるように努めている。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の日常生活の課題をみつけ、一つの支援策だけでなく、ご本人とご家族が選択できるように努めている。	○ ご家族やご本人の希望を確認しながら情報の提供をしていくように努めている。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	突然の環境変化に戸惑わないようにたの入居者やスタッフが声かけを行い、徐々に馴染めるように努めている。	○ 入居者が安心感を持って生活できるように声かけに心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話する時間を大切にしたり、スタッフでミーティングや申し送りを行い、確認できるように努めている。	○ 今後もその姿勢を続けていくように努める。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には状況を説明し、一緒に支援できる関係を築くように努めている。	○ 御家族の意見を取り入れるように努めている。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際にはご家族で過ごせるように見守りをしている。	○ よりよい関係維持を保てるように努めたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や地域との交流を積極的に行うような環境作りに努めている。	○ 交流を深めるようなイベント作りや立ち寄りやすい場にできるようにしていきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の特徴を把握し、より多くの入居者と会話できるように努めている。	○ 声かけをし、入居者同士が会話できる時間を大切にしていきたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談や継続的な関わりを必要とされている入居者やご家族にはいつでも相談を受けることを伝える。	○ 契約が終了しても今までどおり、変わらない関係を続けられるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から生活暦等を伺い、また、ご本人の思い出話から、思いを把握し、より本人本位である事を見指している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後の面談時に生活暦を伺い情報を得ている。また、それを全スタッフが周知しており、サービスの生かせるようにしている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、バイタルチェックを行い、身体面の把握をし、精神面、一日の過ごし方は、本人との会話、動きの観察、ご家族の来訪された時の会話などから把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に、スタッフ間で問題をあげ、今後の介護について検討を重ねている。ご家族からは、入所の際に希望、要望を伺い、介護計画に反映できるように話している。	○ ご家族からの希望、要望を伺える場を設け介護計画に反映していきたい
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをしている。状態に変化があれば、それに即した対応を行うべく、ご本人、主治医等に相談し、介護計画の見直しを新たに作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、少しの変化も見逃がさないよう全スタッフで、心掛け、経過記録に記して、介護支援に役立てている。また、介護計画の見直しの際にも活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	季節毎の催し物への参加で楽しみの幅を広げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的で開催する運営推進会議にて、自治会長、老人会長に参加して頂いたり、消防署に連絡して避難訓練を行って、各機関と協力しながら入居者への支援をしている。		
43 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、御家族からの要望があれば他のサービスを利用できるように支援している。		
44 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的で開催する運営推進会議にて、地域包括支援センターの担当職員に参加して頂き、助言を受けながら、日常の支援に生かしている。		
45 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を聴き、同意が得られたかかりつけ医と信頼関係を築く事が出来るよう留意しながら、ご本人の身体状況に応じた適切な、受診介助にて、いつまでも健康に過ごして頂けるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と、入居者の状態について連絡を取り合いながら、受診介助時にスタッフが相談したりして適切な診断や治療を受けられるように支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医所属の看護師が、毎週来られ様子を診て下さる際に、変化について相談し、早めの医療的処置が行えるように努めている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は頻繁に面会に行き、医師、看護師から情報を得て、ご本人の状態を把握し、ご本人が安心して治療できるように声かけを行い、家族とも連絡を密に行い、早期に退院できるよう努めている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にご家族の意向、ご本人の意向を確認している。終末期に対する対応指針を定め、医師、看護師、家族を交えて、話し合いを行っている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変した場合は、すぐに対応して頂けるよう医療機関とも連携を図り対応している。また、「できること、できないこと」を見極め、スタッフ間で話し合いをし、取り決めをしている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう、これまでの生活環境支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人のプライドを傷つけず、話相手となる機会を十分に持ち、配慮によるコミュニケーションを大切にしている。	○ その人個人に合わせた言葉かけ会話の内容等を実施している。まだ、全員ではないが、個人情報同意書を頂いている。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	対人援助に欠かせない信頼関係を大切に受け入れを行っている。	○ ご家族の意向やご本人の希望を十分に考慮できる様になりたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活を正しく行うために一日の流れに沿ってはいるが、ご本人の体調、気分等を考慮した支援を行っている。個別の買い物希望等にも配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容室、個人希望による行きつけの店等に応じている。また、起床時、入浴後の髪の手だしなみ等さりげないおしゃれの支援を心かけている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人のADLに合わせ無理のないように食事の用意、後片付けを行っている。	○ 食事時、音楽を流したり、スタッフの声かけ見守りにて楽しく食事が出来るようにしている。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族に持参して頂いたり個人負担にて自由に買って頂いたり好みに沿う物を楽しんで頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見てのトイレ誘導、オムツ交換もこまめに行っている。トイレ、ポータブルトイレも常にきれいにし、気持ちよく使用して頂いている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持に配慮している。排泄時の汚れ等はすぐに対応できるようにしている。本人の体調や意思を考えて入浴して頂いている。	○	異性の介助を嫌う入居者には同姓のスタッフが対応している。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを大切にし入床準備、誘導を行い、ご希望通りに支援し夜間、安眠できるようにしている。	○	医師の指示による眠剤も体調に合わせて、調整している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活習慣を尊重しながら施設生活の中で楽しく生活できるように得意な事を活かし役割を行って頂き意欲を持ってもらう。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が不可能な方は施設でお預かりし、ご本人の希望時、その都度自由に使えるようにしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活と活気を取り戻せる様に気候や天候を見ながら散歩やドライブ等を行っている。	○	自立歩行者、車椅子、歩行器使用者など十分に配慮し地域イベント、行事にも参加している。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気分転換等を兼ねて季節に合った場所で昼食を摂る等、年間行事を組み計画を実行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望すれば電話できる。 手紙を書かれた時は職員が切手を貼って出す。 希望があれば代筆も行う。届いた手紙は封を開けずに直接本人に渡す。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等の規制はなく、いつでも自由に訪問して頂いている。面会者と他の入居者との会話もよく見られ、スタッフも必ず挨拶する。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず拘束が必要な場合は、ご家族への説明を行い、理解された上で行う。状態が落ち着き次第すぐに解除を行うようスタッフ全員の周知徹底をしている。1名の居室のみ窓から離園しようとする入居者がおられるため柵をしている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、1名の入居者が離園傾向にあるため、スタッフが手薄になったときのみ施錠している。それ以外は夜間のみ施錠している。居室には施錠していない。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士声をかけ合いながら入居者の所在確認を怠らないように危険がないように、見守り支援している。対面キッチンの中から必ず入居者の動きを見ることが出来るよう配慮している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人、家族の希望、本人の管理能力を確認し危険のない範囲で持ち物管理している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット、事故報告書などを活用し常にスタッフ間で再発防止について十分に議論するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時は、提供医療機関と連携し指示を仰ぎ、事故発生時は経営者または管理者に連絡をとり指示を仰ぐようにしている。	○	対処方法は口頭では言っているが、以前マニュアルは出来ていない。早急に作成したい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の夜間想定避難訓練を入居者と共に実施している。	○	運営推進会議で議題として出し、地域住民に協力を要請した。飲用水、非常食の確保はしている。地震、水害のマニュアルは作成している。職員に周知徹底印したい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族の面会時など、会話の中では、リスクについて説明している。しかし、理解できていない御家族もおられる。	○	リスクのある入居者のご家族には、電話またはホームに来ていただき、説明している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い、細かな観察と情報を共有し、個々の体調の変化や異変には速やかに対処し、必要に応じて受診している。また、業務日誌や申し送りなどでスタッフ全員に伝達している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、いつでも確認できるようにしている。服薬が変更になった時などは業務日誌や申し送りなどでスタッフ全員に伝達している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給と野菜中心の食事を取り入れ、散歩や体操など体を動かす働きかけをしている。また、下剤服用の調整も行っている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な入居者には支援をいっている。また、個々の状態に応じ見守り、支援している。義歯をしようしている入居者には、洗浄剤をしようし、清潔を保持している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分摂取制限のある入居者は薄味、誤嚥の可能性がある入居者にはキザミ食などその人に合わせた食事を用意する。スプーンも(大・中・小)など用意している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出した際は必ず、手洗い、うがい等予防に努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材等在庫管理を行い、調理器具等、衛生上問題がないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植えて明るい雰囲気作りに心がけている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の写真、季節に応じたポスター、花、手作りの作品等を取り入れている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間にソファを置くなど入居者同士が過ごせやすいようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の好みのものを持ってきてもらい使用されている。		
86 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	市販の消臭剤、換気扇、臭いがしないようにしている。温度調節は基本の温度を決めており、その日に応じて温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	回りには手すりがあり、伝って歩行するように声かけをしている。浴室にも手すりがある。		
88 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	極力見守りにて対応している。負担にならないような事も心がけている。出来ることはなるべくしてもらおうようにしている。		
89 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の回りには花を植えて、天気の良い日には、スタッフといしょに水やりを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

入居されている皆様それぞれの出来ることや良いところを見つけ、持っている力を引き出せるよう温かく見守り、さりげなく寄り添う介護。日々の生活の中の小さな喜びや笑顔を大切に、ごくありふれた幸せな気持ちをもう一度ゆったりと実感できる、居心地のいい安心した生活を私たちはお手伝いさせていただきます。